

====支部だより====

関西支部第36回夏季大学報告

関西支部第36回夏季大学を、2014年8月23日（土）に、京都市サテライトパークサイエンスホールにおいて、大阪管区気象台および日本気象協会関西支社の後援で開催しました。

今回は「大気エアロゾル ～大気中を浮遊する微粒子～」をテーマとし、高橋けんし氏（京都大学生存圏研究所）「大気エアロゾルが地球環境に与える役割を“化学する”」、岩坂泰信氏（滋賀県立大学）「風が運んでくるエアロゾル：浮遊化学工場」、菅田誠治氏（(独)国立環境研究所）「PM2.5は増えているのか？心配なのか？」の3講義を実施しました。

第一講の高橋氏の講義では、雲の「芯」としてのエアロゾルの役割およびエアロゾルそのものの生成過程や気候への影響に関して、理論的基礎から丁寧に解説していただきました。第二講の岩坂氏の講義では、黄砂研究の歴史および様々な観測手法、さらには最新のバイオエアロゾルの研究などについて、現場での体験談も含めて楽しく紹介していただきました。第三講の菅田氏の講義では、近年の一大関心事であるPM2.5について、大気汚染問題の歴史から最新の観測的知見まで詳しく説明していただき、PM2.5の健康リスク

を冷静に判断するための基礎知識を得ることができました。各講義とも、講師の皆様がわかりやすい説明を心がけて下さったこともあり、質疑応答も活発で、盛況のうちに終了することができました。

講義後のアンケートでは、参加者73名中58名から回答を得ることができました。アンケート回答者のうち、男性は74%、女性は26%で、学会の会員/非会員別では、会員が31%、非会員が69%となりました。参加者の年代は10代から70代まで幅広く、特に今回、気象学会の裾野を広げるための試行として高校生の参加を無料としたこともあり、3名の高校生が参加してくれました。講義の難易度に関しては、「適当」と「わかりやすい」を合わせると全ての講義で7割を上回りました。自由形式で書いてもらった講義の感想についても「こんなに充実した講義が受けられるなんて幸せ」など好意的な内容が多く、満足のいく夏季大学を実施できたと考えております。

最後に、多大な協力をいただいた後援の機関、講演いただいた講師の皆様には厚くお礼申し上げます。

（関西支部）